

# 算命中庸

## 【初年】 3 1 回目

3 1 回目の授業はこのページからです。

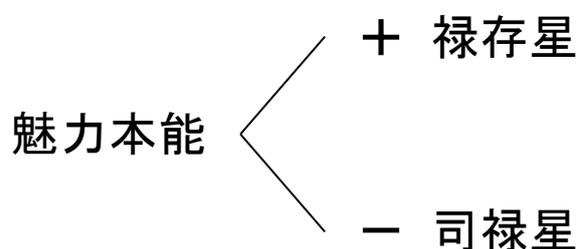
授業科目           【十大主星特性③】

【初年】 3 1 回目 【十大主星特性③】 01

### ➡ 禄存星・司禄星

ろくぞんせい      し ろくせい  
禄存星と司禄星は伝達本能の星です。

魅力本能にも、陽の魅力の星・陰の魅力の星があります。

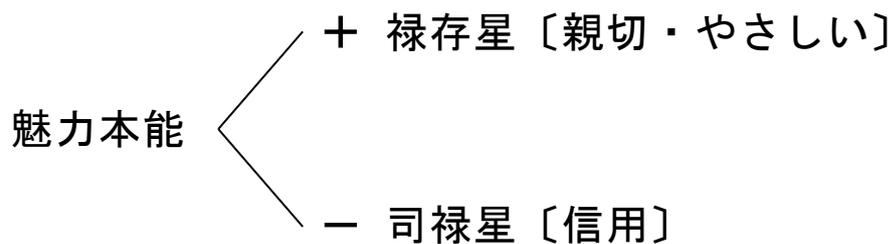


みりよくほんのう

魅力本能は「人から好かれない」「よく思われたい」——  
「愛されたい」「人気を得たい」そのような本能です。

相手から好かれない、よく思われたい、とおもったら、  
どうなさいますか？

その人に「やさしくしてあげる」とか「親切にしてあげる」  
とか、するかとおもいます。



“親切でやさしい星” 禄存星の特徴です。

(陽) の魅力の禄存星は主体性がありますから、直接的  
に、その人にやさしくしたり、親切にしたり、そのよう  
なやり方をします。

陽の魅力は直接相手に親切にして、ダイナミックに相手  
の心を惹きつけようとします。

司禄星の主体性のない（陰）の魅力は、どのような魅力なのかといえ、算命学ではつぎのように考えています。

陰の魅力は、直接相手に働きかけない（親切にしない）で、地道にコツコツと積み重ねること信用を築きます。

司禄星は“信用”という魅力を発揮して、相手の心を惹きつけます。それは陰の魅力だと考えています。

普段から真面目にきちんと生活していれば、自然にまわりの人たちから、信用されるようになります。

〔あの人にまかせておけば大丈夫〕—— そういう信頼を得れば、相手に良い印象を与えた姿とおなじです。

まわりの人たちに好かれたのとおなじです。

地味な魅力の発揮ですが、結果的に相手の心を惹きつけます。

（陽）と（陰）の違いを、まずは頭に入れておいてください。

☞ 禄存星から話を進めます。

## ☆ 禄存星

禄存星 ⇒ 魅力（陽）

禄存星は「親切でやさしい星」と思われている星です。  
親切でやさしい人なら、人から好かれるでしょう。  
また、<sup>よ</sup>良い人・<sup>よ</sup>善い人——とおもわれるでしょう。  
その意味合いをストレートに発揮します。

禄存星は<sup>ようせい</sup>陽星ですから、相手に直接的に、やさしくしたり、親切にしたりします。  
それゆえに、人から好かれやすい星です。という意味になるわけです。

禄存星は、基本的にどなたにも、親切でやさしくできる質をもっています。

誰にでも、親切でやさしくできる ⇒ 人から好かれやすい

ただし、相手がいることなので「必ず、好かれる」とは、いい切れません。

やさしくしたら、相手は「やめてっ」と、言われるかもしれないし、「不快だわ」となるかもしれません。

人はそれぞれ違いますよね。

だれにでも好かれるということでないのですが——、思いやり・心づかい、とかを感じさせますので、好ましいと受け入れられて、人気につながります。

### 人気を得やすい

さらに、<sup>あいそ</sup>愛想がよくて、楽しい人、明るい<sup>ふんいき</sup>雰囲気の人、というふうになれば、なおさら好かれます。

### 愛想がよい

嫌いな人にもニコニコできる、愛想がよいわけです。

やさしく親切で、愛想がよい、となれば、愛情がゆたかな人です。

相手のことを、愛してあげる、大切にしている、それを何気なくできる質があります。

### 愛情ゆたかな星

まずはこのように考えておいてください。

禄存星は、基本的に誰にでも親切にできるし、愛想もいいので、人から好かれやすく、愛情ゆたかな星、といました。

そうしますと、人気を必要とする仕事、人から好かれる条件じょうけんを必要とする仕事には向いています。どうい仕事があるでしょう……。

人気を博はくする仕事に向く（向いています）



芸能人

ほかの星に比べて、実際に芸能人には禄存星をもつ人が多いです。あるいは、主星が禄存星の人が多いです。

芸能人にんき いのちは人気にんきが命いのちです。

極端に言えば——歌が下手でも、演技が下手でも、人気があればいいわけです。歌が上手で、演技も上手でも、人気がなければ、芸能人としては成功できないわけです。芸能……これはあまり一般的な職業ではないですね。

参考・条件〔ある物事が成立するために不可欠は事柄〕

参考・博する〔名声・評判などを得る〕

一般的な仕事で考えますと……。

誰にでもやさしくて、親切にできる人で、人から好かれたほうがいい仕事は、営業、商売は全般に向きます。

お客様に親切に対応できる、やさしくできる、愛想よくできる人物のほうが、商売は繁盛します。

どうでしょう……おなじ品物を買に行ったとき、値段がおなじなら、親切に対応してくれるお店のほうで買いたくなるでしょう。

営業・商売は全般に向きますが、特にこれは 客商売 と考えてください。

客商売にとっても向いている星です。

営業とか商売でもさまざまな形態があるわけです。

直接お客様と接するような、営業とか商売に向きます。

このような意味だと解釈してください。

禄存星の人は客商売に向きます。

☞ 自分で商売をはじめたとします。

自分には禄存星が1つもない——ということでしたら、お客様と直接、応対するようなセクションには、禄存星をもっている人を雇って、そこに配置すればよいですね。そのときに、主星が禄存星だと、なおよいのです。

お客様と接するセクションに、<sup>かもく</sup>寡黙な人、愛想がなく、親切じゃない人を配置したら、お店が<sup>はや</sup>流行るということではないでしょう。

そうしますと——。

禄存星は、だれにでも親切にできるので、人から好かれやすいし、愛想もいいし、愛情もゆたかでやさしい星です。このようにいっています……。

禄存星をちょっと<sup>きび</sup>厳しい眼で見たらどうでしょう……、人に親切でやさしいのは、何故ですか？

自分が好かれないからですね。

相手によくおもわれたいからですね。

魅力本能の陽星・禄存星は、人から好かれない、人から良く思われたいから、親切にやさしくするわけです。

そして、<sup>きら</sup>嫌いな人にも、愛想よく、接してあげたりするわけですか。そういう質をもっています。

特に人体図の真ん中に禄存星がある人はそういえます

その行為は——好かれようとして、意識してやっているのではありません。とは言い切れないのです。その裏側を考えると、やっぱりよく思われたいからです。

といいますのは……親切にしてあげたのに、その人からお礼をいわれなかったとか、チョコん、とでも頭を下げてくれなかったら、親切にした理由がなくなります。

参考・理由 [物事がそうなるに至った事情]

ときには——相手に親切にやさしくしてあげたり、面倒見てあげたりしたのに、「余計なおせっかい止めてっ」といわれることがあるかも知れません。

「おせっかい止めてよ」といわれたら、“好かれない”という潜在的な目的意識をまったく果たしていないこととなります。そのような相手に対して、<sup>やさ</sup>優しくする、親切にする、その価値も理由もなくなるわけですか。

そうなると、親切でやさしい星ですが、禄存星は現実的  
考え方をします。

### 親切にする理由がなくなると、逆に冷たくなる

せっかく、やさくしているのに——その人から嫌われた  
りしたら、親切にやさしくしてあげる理由がなくなるわ  
けです。

そうなると、<sup>てのひら</sup>掌を返したように冷たくなります。  
現実に即応して、きっぱりと結論をだします。

さきほど——客商売に向いています。といいましたけど、  
親切で愛想よくするのは、相手がお客様だからです。

お客様だから大事にするのであって、お客様でない人達  
にまで、愛想よくするというものではありません。

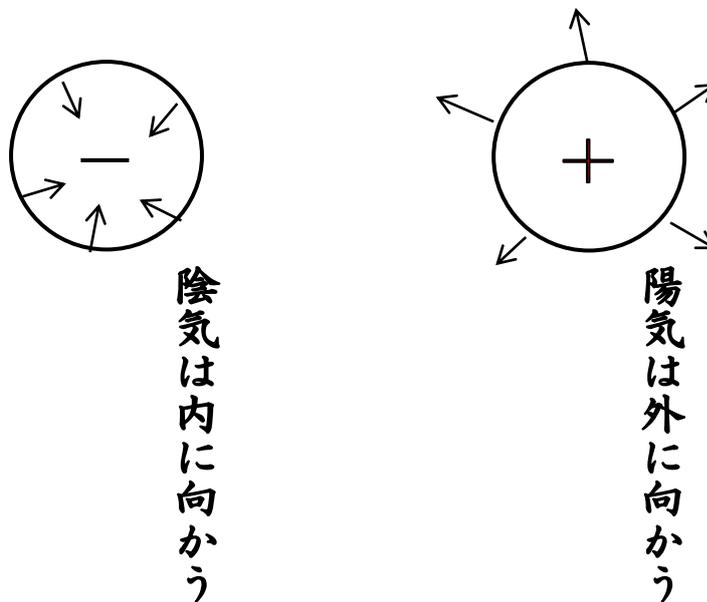
そんなことをしていたら、自分が<sup>ひへい</sup>疲弊してしまいます。  
ゆえに「その必要はない」ことについては、現実に即し  
た無駄のない判断をします。星の質はとても親切なので  
すが、自分にとって不利益になりそうなときは、損か、  
得かを、即、考えて行動するという面も備えています。

⇒ 算命学は「気」には方向があると考えています。

陰と陽を比べたとき、『陰気』と『陽気』には方向があります。

陽の気は、基本的に外に向かう性質をもっています。

陰の気は、基本的に内に向かう、内にこもるような性質をもっています。



魅力本能〔禄存星・司禄星〕だけの話ではないのです。

陽といえど—— その（陽）が何本能の星であろうとも、外へ向かって行く性質があります。

陰といえど—— その（陰）が何本能の星であろうとも、内に向かおうとする性質をもっています。

これは陽と陰の「気」が向かう方向です。

⇒ 前回の科目は、鳳閣星（陽）と 調舒星（陰）は伝達本能の星でした。

伝達（陽）と（陰）の『気の方角』を考えますと――。

⇒ 陽といえ、外へ向かう気ですから、伝達が外へ向かうのは鳳閣星です。

それゆえに、あるがまま、その姿のままに伝達します。

⇒ 陰といえ、内に向かう気ですから、調舒星の伝達は内に向かいます。

自分が言いたいこと、伝達したいことが内に向かってしまいます。

その「気」は自分のなかで、想像・空想の世界へと膨らんでいくとか、その事象と格闘する姿が内に籠もる質になったりするわけです。

⇒ 禄存星は（陽）の魅力の星です。

魅力本能の場合も、禄存星は主体性の陽気ようきをもちます。  
親切でやさしい魅力本能の気は外へ向かいます。

それゆえに「外部に向いた面はいい」という意味になります。

禄存星 ⇒ 外面がよい（がいめん・そとづら）

禄存星の魅力本能は、親切で優しい性質はもっていますが、それは外へ向かいます。

ゆえに、外に向けた顔がいい人になります。

内面うちづら・家族や内輪に見せる顔はあまりよくないのです。

何のために、相手に優しく、親切にするのかといえば、  
人から好かれないから、相手に好かれない、だから——  
親切でやさしくします。そういっているわけですね。

〔たとえば〕

恋人同士であれば、結婚前は相手に好かれないわけです。  
好かれないから、すごく親切でやさしいです。

でも——結婚したら、もう他人じゃないし、釣った魚とおなじで、そんなに親切でやさしくする必要ないわけです。女性に大変失礼ですが“自分のものになった”と、たいていの男は考えるわけです。

特に主星（人体図の真ん中）が禄存星の人と付き合っていたとすれば、結婚前は〔なんとよい人なの〕〔なんて優しい人なの〕 そのように思って結婚するわけですが、結婚した途端に冷たくなる傾向があります。

結婚すると、自分のもの（特に男は自分のもの）という意識が働いてしまい、やさしくする理由が結婚前より無くなるわけです。

結婚は——そこを良く考えてから決めることですね。

結婚したあとは、家族より他人（外面）のほうへ、気が向かうという傾向がでます。

それが“悪い”といているのではなくて、そういう星だということです。

★ 星は人間とおなじです。どの星でも、多かれ・少なかれ……両面を所有しています。これは仕方のないことなのです。

司禄星は陰<sup>いんき</sup>気をもちます。

陰の気は内に向かうので、「内面がいい」という言い方になります。

ようするに、家族・内輪を大切にしますので、家庭的ということです。

### 司禄星 ⇒ 家庭的

司禄星は家族にやさしいので家庭的です。というふうに考えるわけです。

おなじ魅力の星でも、禄存星と司禄星は異なります。

外へ向かう——他人へ向かうのは禄存星です。

内に向かう——身内に向かうのは司禄星です。

さて「禄存星は親切でやさしい星です」このように書きましたが、必ずしもそうではありません。

禄存星の人でも、性格の良い(善い)人もいれば、性格の悪い人もいます。

人間性の程度は、星だけでは決められないのです。

その人物の育った環境にもよるのです。

「十大主星」すべてにおいて：

〔どの星が良い星〕〔どの星が悪い星〕という決まりは、もともとないのです。

ゆえに、おなじ禄存星の人でも、禄存星の良い面が多く出ている人もいれば、悪い面のほうが多く出てしまっている人もいます。

つまり「十大主星」どの星にも、良い面と、悪い面は、必ずあると思っておいてください。

★ 星は人間とおなじです。どの星でも、多かれ・少なかれ……両面を所有しています。これは仕方のないことなのです。

参考・人間性〔人間として生まれつきの性質・人間らしさ〕

参考・程度〔ほかの同種のものとは比べたとき、高低・優劣などの度合い〕

☞ 禄存星について、大切なことを加えます。

魅力の星は、魅力本能をもっています。

相手の心を惹きつけようとしします。

相手から好かれようとしします。

この魅力本能が発揮されて、たくさんの人の心を惹きつけたら、それは結果として、何になるのでしょうか？

引きつける方法は、何でもいいですよ……。

**魅力本能が世の中において発揮されると**

〔たとえば〕 お笑い芸人が、面白い漫才をやって、見物客の心を惹きつけたとしします。

その芸人を**ひいき**に**ひいき**にする人達がたくさん集まって、ファンクラブを結成しました。

芸人としての地位も上がり、ギャラが高くなって、豪邸も買えました。

そう——お金です。つまり「財」です。

**財になる**

魅力本能が世の中で発揮されて、**ひいきすじ**ご**ひいきすじ**が**ひいきすじ**増えれば、必ず「財」になります。

本人は<sup>かねもう</sup>お金儲けをしようと、思っていなくてもです。  
本人がお金にこだわっていません。

漫才師でも歌手でも、お金が目的ではない、という意識  
でやっている人もいます。

漫才師はおもしろい漫才、歌手なら歌唱力を活かして、  
大勢の人を楽しませたい、お金にこだわらない気持ちで  
やったとしても、大勢の人の心を<sup>ひ</sup>惹きつけたら、必ず、  
収入は増えます。

歌い手が人の心を感動させたら、必ずお金になります。  
お金が目的であっても、お金が目的でなくても、財にな  
ります。

アイドルのなかには、芸が下手で、歌が下手で、しかし  
違うやり方で、多くのファンの心を魅了する人物もいる  
でしょう。人から好かれれば収入になります。

歌がどんなに上手であろうと、聴衆の心を惹きつけるこ  
とができなければ、お金になりません。

どうでしょう……。

魅力とお金——これは芸能界だけの話ではなくて、どのような職業にもいえることです。

どの職業であろうと、多くの人々の心を引きつけることができれば、必ず財産になります。

〔たとえば〕 レストランを開きます。といったときに、味で勝負をするのであれば、美味しい料理を創作して、お客様の心を魅<sup>ひ</sup>きつけますよね。

レストランとして、味覚・サービスを提供して、大勢のお客様を引きつけたレストランは財になります。

しかし、選りすぐりの食材をつかい、凝<sup>こ</sup>った内装を施<sup>ほどこ</sup>したレストランであっても、なにかしらの理由で、お客様の心を引きつけることができなければ、客離れによって、お店はつぶれるでしょう。財にならないのです。

100円ショップなどで、皆さんも「これ100円、安いな」と思って、買ったりすることはあるでしょうけど、そのときに、なぜ、お金を支払うのですか？

品物を買わなければ、お金を払わないで済みますよね。

なぜ買うのかといえ、人間は 100 円分に相当する価値をその品物に見いだして“心を奪われた”ときに 100 円支払うわけです。

1 万円分——心を奪われたら 1 万円支払います。

100 万円分——心を奪われたら 100 万円支払います。

“心を奪われた”ときですよ。

どれほどいい品物でも、心を奪われなかったら、お金を払って買おうとはしませんよね。 どうですか？

〔たとえば〕洋服を買う、生活用品を買う、何を買うにしても、「これ買ったの千円だったわ」といったら、それは、千円分の心を奪われたから、千円支払ったわけです。

どんなに安い品物でも、どんなによい品物でも、自分の心を奪われなかったら、お金は 1 銭も払わないはず。相当に高価なものでも“心を奪われた”となると、それだけ支払うわけですね。

1 億円で家が売りにでていました。1 億円もっているのかどうかは別にして、「私のために建てたような家だわ」

と、恋い焦がれるような造作であれば、1億円でも支払うわけですよ。

「どれも100円ですよ」っていわれても、心を奪われなかったら、買わないわけです。

それゆえに、お金儲けしようと思うのであれば、どのような方法でも——とにかく大勢の人の心を奪うやり方を見つければ、その商売は成功します。

お金目的でなかろうとも、それは財になります。

☞ マザー・テレサは三度来日しています。

1981年4月「ビューティフルなことって何」

1982年4月「飢えることとは？」

1984年11月「飢えと生命」

インドから、マザー・テレサさんが日本に来たときに、日本中から寄付がたくさん集まったそうです。相当の金額が集まったそうです。

\* マザー・テレサ 1910-8-26 [1997-9-5] 87 歳没

大運は7歳運の逆まわり

	癸	甲	庚		玉堂星	天堂星	7 甲寅
子	亥	申	戊	石門星	玉堂星	牽牛星	17 乙卯
丑		戊	辛	天将星	調舒星	天極星	27 丙辰
	甲	壬	丁				37 丁巳
	壬	庚	戊				47 戊午
							57 己未
							67 庚申
							77 丙子
							87 乙亥

## マザー・テレサの言葉

「聖なる人になるということは、少数者の特権ではありません。それはあなたと私、つまり皆にとって義務なのです。」「私たちが、神の栄光のために働くなら、聖なるものとされるでしょう。」

ドアベルが鳴りました。(夜の十時頃だったのでしょうか)  
私がドアを開けると、一人の男の人が寒さに震えて立っていました。「マザー・テレサ、あなたが大きな賞を頂き

になったと聞いた時、私も僅かですが何かさし上げたい  
と思い立ちました。これは今日私がもらったすべてです。  
何卒、お受け取りください」

それは確かに僅かでした。でも、彼の持ちものすべてだ  
ったのです。

それは、私にとってノーベル賞以上の感動を与えてくれ  
ました。(マザー・テレサ 愛と祈りのことば 渡辺和子 訳より)

「ある夜のこと、一人の女の人は体にうじがわいていて、  
死にかかっていた。私は彼女の体中のうじを取り、  
体を拭きました。時間がかかりましたが、拭きおわって  
ベッドに寝かせたとき、彼女は私の手を取り、やさしい  
微笑をたたえ、私にたった一言『ありがとう』と行って  
息をひきとりました」

マザーが受け取ったのは、「神の愛」であった。

マザーは「これが最も貧しい人のすばらしさだ」マザー  
はいう。貧しい人はマザーが与えたものよりもっと多く  
の「神の愛」をマザーに与えたのだ。

「それはなぜだかわかりますか。それは貧しい人、一人

ひとりが神様の子供であり、愛し、愛されるために、神さまとおなじ愛する手で造られたからです」

「もし間違いが起きても子供の命を奪わないでください。助け合ってその子供、胎児を受け入れるようにしてください。まわりの人に助けを求めて、お互いにそして神様に、また家族に、顔を向けられるようにせねばなりません。なぜなら、ひとつの過ちが新たな悪を生んではならないからです。あなたがたは、みんな若くて、未来と、新しい生活がまっています。結婚生活であれ、修道生活であれ、神さまがどのようにあなたに呼びかけようとも、汚れのない清い心、愛と喜びと平和に満ちた心をあたえられるようにしてください」上智大学での講演だそうです。

「マザー」は指導的な修道女の敬称だそうです。

マザー・テレサは、世の中の貧困に喘ぐ<sup>あえ</sup>人を、少しでも助けたいとする活動をしていたわけですが、魂の叫びに共感した人は日本にもたくさんいたわけですね。

マザー・テレサのファンになったともいえるでしょう。

彼女に魅きつけられともいえるでしょう。

マザー・テレサ聖なる行動に、心をするどく衝<sup>つ</sup>かれたともいえるかも知れません。

彼女から発せられる<sup>れいせい</sup>霊性の高さに心を奪われた。とすれば、心を奪われた分のお金を寄附するでしょう。

それらの寄附によって、マザー・テレサの修道会には、何億・何十億というお金が集まるでしょう。

どのようなことでも、大勢の人間の心を惹きつけたら、魅了したら、それは財になります。

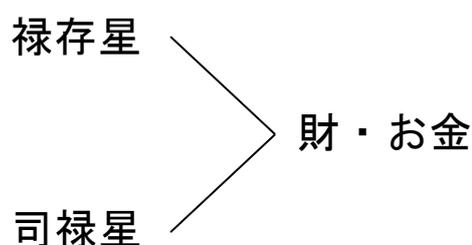
☞ マザー・テレサに対する批判もあります。

それらのこともネットに掲載されていますので、お読みになると良いでしょう。

個人、個人さまざまな観方、意見があって当然でしょう。

それらを選択されるのは、貴方ご自身のところです。

⇒ 禄存星（陽）と 司禄星（陰）は、どちらも魅力本能の星です。そして財の星です。



禄存星・司禄星は『財の星』あるいは『お金の星』という意味があります。

それゆえに、財運を占ときには、この禄存星・司禄星をつかっていくようになります。

この星をつかいて、この人は財運がある宿命だとか、今年には財運がよくないですよ、とか、そういう占いをするようになります。

☞ チョット間違えないでいただきことがあります。

禄存・司禄は、財・お金の星だから、禄存・司禄をもっているとお金持ちになる——このような意味とは全く違います。禄存・司禄をつかって、財運を占うのです。

占い方はまだやっていませんが、これから出てきます。

〔たとえば〕 ④さんは人体図に禄存星・司禄星をもっています。でも「④さんの禄存星・司禄星は相当壊れこわされてしまっている」ということもあるのです。

そうなっていると、「お金で苦しみます」そういう占いになる場合もあります。

ですから、禄存星・司禄星をもっています。といっても、その人にとって、良い財運か、悪い財運か、判らないのです。財ということでは、それに付随するさまざまな事象を総合的に観ることで占いになっていくのです。

⇒ 禄存星を人物でいえば——父の星です。

父親と縁が深いとか、縁が薄いとか、父との関係とか、このような事象を占うときは、禄存星をつかいます。

人物 ⇒ 父親      そして⇒ 男性にとっての愛人

もうひとつ……禄存星には“愛人の星”という意味があります。

父親と愛人はまったく違うじゃないか、と思うかも知ませんが、

ろくしんほう  
六親法という法則があります。上のクラスで学びます。六親法でみると、父親にもなりますが、男性のにとっては、愛人という意味にもなります。(女性のときの彼氏のことではないですよ)

男性にとっての愛人ですから、当然、妻ではありません。  
妻ではない女性をさします。

人物の見方はもう少し先になってから詳しく出てきます  
けど、基本的には、その星をもっていると、その人物と  
縁が深いとか、かかわりがあるとしてみるわけです。

〔たとえば〕 禄存星が二つ、三つあったとしても、実の  
父親が二人も三人もいるわけではないのです。

そうしますと、禄存星がたくさんある男性は、愛人と縁  
が深いとか、そのような意味にもなってきます。

かんたんにいえば、禄存星がたくさんある男性は、女性  
関係が多くなりやすいのです。

必ずとは言い切れませんが、基本的な在り方として考えます。

**禄存星がいくつもある男性は、女性関係が多くなりやすい  
良いか悪いかわかりませんが、女性にもてるわけです。**

魅力の星ですから、だれにも、優しく親切にできます。  
外面がよいので、女性関係が多くなりやすいわけです。  
特に男性は女性関係のほうに出やすいのです。

女性で男性関係が多くなるのは、これとは別の星になります。そのことはもうしばらく待ってください。

これは勉強が進んでいくとおわかりになりますが「女性でも禄存星がいくつもあって、男性関係が多くなる」という女性もいます。それは宿命によるのです。

こういう宿命だと「男性関係が多くなる……」というふうになります。その観方勉強が進んでいくとわかります。そういう例題がでてきます。

♣ ここでの話は、禄存星は基本的に男性にとっての愛人です。そのように思っておいてください。

♣ 禄存星はやさしい星ですけど、考え方は現実的です。このようにいいました。

**思考法 ⇒ 現実思考〔考え方は現実的〕**

といわれています。

そして〔これは損だとか〕〔これは得だとか〕損得の感覚にも秀でていきます。

**損得の感覚に秀でる → 合理的**

さきほど——商売に向いている。という話が出てきましたけれど、損得計算ができなければ、商売に向かないはずですよ。

その場、その場での損得感覚はしっかりしています。

ゆえに、商売にも向くといえます。

やさしい星ですが、自分に不利・不利益になることには、なかなか“したたか”です。

情に流されない判断をします。

そして、合理的な物の考え方を併せ持ちます。

参考・合理的〔物事の進め方に無駄がなく、能率よく物事を行うさま〕

## ☆ 司禄星

### 司禄星 ⇒ 魅力（陰）

司禄星も魅力の星ですけど、（陰）の魅力本能です。

禄存星のように、直接的に、親切にする・やさしくするという、主体性のある方法はありません。

もうチョット地味なやり方をします。

司禄星の魅力は“信用”といたしました。

まわりから信用されて輝く星が司禄星です。

一般的に考えていただきたいのですが、司禄星の信用は  
〔この人は確かだ、信じて疑わない〕という魅力を發揮して、まわりの人たちから得られた“信用”という評価によって、人々の心を引きつけます。

まわりから信用される人間になるためには、どのような生き方をしなくてはならないのでしょうか——？

それは、誠実・真面目です。

不真面目だったら信用されませんからね。

まじめ

「コツコツと絶え間なく心身を労して、物事をきちんと成し遂げる」という生活をしていれば、自然とまわりの人達が信用してくれるようになるはずです。

### いつもおなじように ⇒ こつこつと努力する

目立たなくて、陰に隠<sup>かげ</sup>れてしま<sup>かく</sup>うような存在であっても、地道で着実にチカラを尽くして励<sup>はげ</sup>むには、時間はかかるでしょうけど、まわりの人<sup>の</sup>信用を勝ち得ることができ<sup>る</sup>はず<sup>です</sup>。こういう特性をもつ星です。

真面目に努力を積み重ねる質の星なので、性格的に地味<sup>じみ</sup>といえます。

### 地味な性格

司禄星は地味な性格で、地味な人に見られやすいです。

禄存星は派手な性格で、派手な人に見られやすいですね。

地味ということは、服装や様子が控えめで、目立たないけど、落ち着いていると感じられます。

### 落ち着きがある

司禄星は地味だけど、真面目に努力します。

結果的に周囲の人から信用してもらえます。

これらの事柄を一言であらわすとすれば――。



堅実

「真面目に努力して、堅実に生きていく」といえます。

司禄星は「堅実な星」と考えておくとよいでしょう。

これが司禄星の持ち味です。

禄存星の魅力、司禄星の魅力、それぞれに魅力の発揮の仕方があるわけです。

さきほど、世の中で魅力本能が発揮して、大勢の人の心を引きつけたら、お金・財になります。といいました。

お店でも企業でも、派手ではないけど、地道にコツコツ努力して、この道一筋何十年、堅実にやってきた会社だと評価されていれば、あの会社の製品なら間違いないなと、大勢の人達から信用を勝ち取っているでしょう。

なにか品物を買うときに「どっちのメーカーにしようか？」と迷ったとき「この製品なら、このメーカーのほうが伝統もあるから信頼できる」と、いわれる会社になれると強いですよ。

司禄星は、信用・信頼といった特徴をもっている星ですから——急に成功させようとか、あるいは、一発当てようとするやり方は向きません。

### 一発当てよう” というやり方は失敗する

人体図に司禄星のある人で、特に主星が司禄星の人は、どのような仕事に就いても、一発当てようとしてはダメです。そのようなやり方は失敗に終わります。

「塵積<sup>ちりつ</sup>もりて山となる」ごくわずかな信用の積み重ねが財になる星ですから、見栄<sup>みえ</sup>を張らないで、しっかりと、あぶなげなく、一步一步を地道に進むことで、司禄星の人は伸びて行けます。星が活<sup>い</sup>きて輝きます。本来、そういう質でありながら、コツコツと努力せず、

一発当てようと画策して、勝負をかけると、必ず失敗に終わります。

まあ、一回目は成功ということもあり得ますけど、それがよいやら悪いやらで——また一発当てようとしてやると、最後は必ず失敗に終わります。

つまり、司禄星のやり方ではないのです。

このことは、何事にもいえます。

**司禄星は、何事にも、地道に、一步一步伸ばしていこう、  
そのやり方をすると成功します**

〔たとえば〕 司禄星の子供が生まれて、学校に通い出したとします。

親御さんが、司禄星の子どもの成績を伸ばそうと思って猛勉強させて、急に成績を上げようとする、失敗に終わります。

一時的には上がるかも知れないけど、結果的には失敗に終わります。

それゆえに、少しずつ成績を伸ばしていこうとすることです。

1 学期は 50 点だったから、2 学期は 55 点を目標とするのです。

1 学期 50 点だったのに、いきなり 90 点を目標にしてはダメなのです。

1 学期 50 点だったら、2 学期は 55 点が目標です。

3 学期は 60 点が目標です。

このように、一步一步、伸ばそうというやり方をして、それを続けていくと、結果的に伸びていきます。

時間はかかりますが、司禄星はそういう質なのです。

このことは、大人になって、どのような仕事に就いても、おなじです。

地道なやり方で、目標を目指して進むことです。

ウサギとカメの競争みたいなもので、カメに勝利の旗が振られるのです。それが司禄星です。

☞ 司禄星の「陰気」は、内に向かいます。

家庭的な星 ⇒ 家庭・身内を大切にす

司禄星の魅力の気は、内に向かいます。

身内のほうに向かって行きますから、家庭・身内に心をくばります。そういう性格の星です。

家庭運を占う、結婚運を占う、そのようなときに、家庭の星である司禄星をつかって、宿命を観てゆくようにもなります。

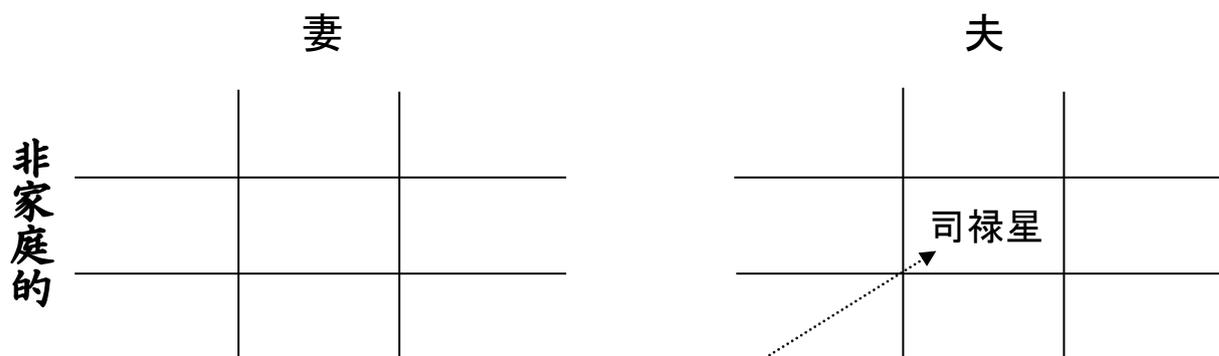
この宿命は家庭運が良いとか、これは結婚運の悪い宿命だとか、そのような宿命の観方は、そのうち出てきますので、そのときに改めてご説明いたします。

☞ 確かに——家庭運が良い悪いとか、結婚運が良い悪いとか、それらのことは宿命にでてきますけど、この部分は誤解しやすいところでもあるのです。

確かに、司禄星は家庭や身内を思いやる星ですが、この星をもっている人は、家庭的に幸せになれるのかといえ、それは決まっていないのです。

家庭や身内を大切にすることは、却<sup>かえ</sup>って、家庭がダメになってしまう。ということもあり得ます。➡

〔たとえば〕 つぎのような事象も起こりやすいのです。



ここでは、夫の主星は司禄星だとします。

妻の宿命に星を載せていませんが、「非家庭的」な人体図です。〔非家庭的な人体図というのがあります〕

もう少しすると、このような観方も出てきますので、ご理解できるとおもいます。

夫の主星は司禄星ですから、家庭的な夫といえますけど、妻は非家庭的な宿命というご夫婦もおられます。

そうしますと、この組み合わせで結婚している場合には、夫は司禄星が主星なので、家庭や身内をたいせつにするわけですけど——その事柄をつぎのように、言い換えることもできます。

「この夫は、家庭内のことに口を出してくるようになりますよ」このようにもいえるのです。

つまり、夫は家庭や身内を大事にしますから、どうしても、「気が内に向かう」ことになります。

夫の心が家のなかのことに、<sup>うごめ</sup>蠢いてしまうのです  
家のなかはどうなっているのか……。

子育てはどうなっているのか……。

そうしますと、どうしても——妻のやり方に、いろいろと口を挟んでくる。そのような傾向が出てきます。

「ここはこうしないとダメじゃないか」とか、「掃除はこうしたほうがいい」「洗濯はこの洗剤をつかったほうがいいんじゃないの……」とか、さまざまです。

よくいえば、“家庭を思いやる”といえますけど、悪くいえば、家のこまごまとしてことにも、口出しをする人になります。

### 家のことに口出しをする

これは司禄星の質・持ち味なので、悪いともいい切れません。しかし、これが原因で離婚になるということもあり得ます。つまり、夫が家庭的過ぎるために、離婚になる場合もあるわけですよ。

ここでは、“非家庭的な妻” という設定ですから……、  
妻にいわせれば「家のことに無関心の夫のほうが<sup>らく</sup>楽よ」  
ということなのです。

どうでしょう——ご夫婦のあいだで、そういうことって  
ありますよね。

それゆえに、司禄星は家庭的な星だから、家庭的に幸せ  
になれるのか……という問題、これはまったく別のこと  
なのです。

ただし——妻の意向をちゃんと訊いて、物事を処理して  
いく司禄星もいますよ。

その場合でも、非家庭的な妻であれば「どうでもいいの  
よ」となるかもしれません。

家庭的な妻であれば、「うちのだんな、こまめで助かるわ」  
と喜んでくれるでしょう。

実に……さまざまなのです。

生まれも、育ちも、違う男と女が、一本の道を歩いて行  
こうとするわけですから、まったく、ぎくしゃくしない、  
そのほうがむしろ不自然かもしれません。

ギクシャクしないということであれば、どちらかが我慢をしているとも考えられます。いかがですか……？

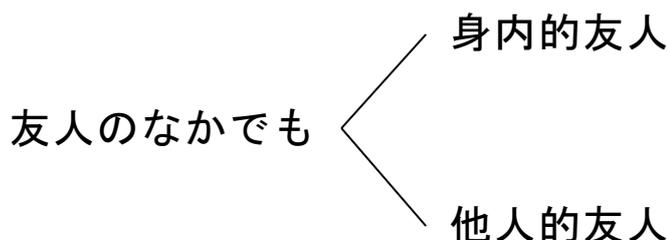
参考・ぎくしゃく〔円満な関係が損なわれて、しっくりいなくなる〕

⇒ 司禄星には家庭的という意味合いがあるわけですが、これは人間関係においても、似たような傾向が出ます。

〔たとえば〕 友達のグループがあったとします。

そのグループのなかでも、◎と◎は自分にとって身内的な友達であって、○と○とは友達だけど、自分にとっては、他人という範疇はんちゆうに入るといって、線引きみたいなものを、無意識のうちに、形づくる傾向があります。

こっちは人みうちてきは身内的な友達、こっちは人は友達だけでも他人的な友達というふうな線引きをしてしまうわけです。



司禄星は「陰気の星」で、気が内に向かうわけですから、

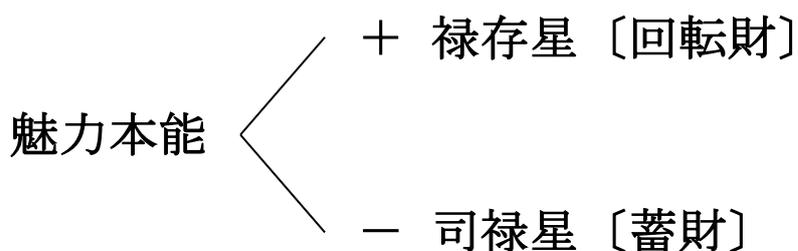
身内的に属するような人物を大事にします。

でも、他人的は相手に対しては、疎通<sup>そつう</sup>が薄らぐというか、そっけないというか、そのような質が出ます。

参考・疎通〔意見・考えなどが支障なくとおる〕

通常の間人間関係においても……身内と他人というふうな区別をしがちです。

⇒ 禄存星と司禄星は、共に財の星という意味がありましたが、財にも「陽の財」と「陰の財」の違いがあります。



禄存星の陽気は、外へ向かうので、財の気も外へ向かいます。財を回転させて用いる気が働きます。

<sup>かいてんざい</sup>  
回転財という意味があります。

**禄存星 ⇒ 回転財**

禄存星はお金を外へ出して、利用するのが上手です。

司禄星の陰気は、内に向かうので、財の気も内に向かいます。つまり、財を貯めようとする気が働きます。

ちくざい  
蓄財という意味があります。

### 司禄星 ⇒ 蓄財

司禄星はお金を貯めるのが得意です。好きです。

禄存星と司禄星ではこのような違いがあります。

司禄星は節約思考です。

貯めるのが好きです。お金をつかうのはあまり好きではありません。散財することはまずないでしょう。

司禄星は“けち”ともいわれますが、何かいと意図があつてケチケチしているではありません。

しっかりしていて、あぶなげのない性格なのです。

堅実な星ですから、気がかりになる——そのようなお金の使い方をしないのです。

### お金に堅実

金銭感覚はしっかりしています。

ただ、司禄星の人は、陰星で気が内に向かいますから、細かいところまで、気持ちがうごめいててしまいます。

〔たとえば〕 ⑥さんと食事に行ったときに、彼女が注文したのは 150 円高かったのに、割り勘でおなじに払ったとか——そういうところにも気が向かいます。

司禄星の人からお金を借りたりすると、いつまでも覚えていきますから、早く返さないといけませんよね。

どうしても、気が内に向かってしまうので、細かいところにも気がうごいてしまっ、気になるわけです。

それだけに、いい加減であやふやなことは嫌なのです。

参考・散財〔金銭をやたらに費やすこと〕

参考・けち〔必要以上に物やお金を惜しむこと〕

参考・堅実〔安全を心がけ、考え方・やり方が手堅く確かなこと〕

☞ 人物でいいますと——、

**司禄星の人物 ⇒ 妻**

六親法をつかってたどって行くと司禄星は妻の星になります。

昔の中国では、七夕の織<sup>お</sup>り姫<sup>ひめ</sup>の星は、司禄星と呼ばれて  
いたわけです。

男のほうの星は、彦<sup>ひこ</sup>星・牽牛<sup>ぼし</sup>星ですね。

思考法は——、

**司禄星 ⇒ 経験思考**

特に主星が司禄星の人、ものの考え方は経験思考といわ  
れます。

司禄星は努力して、地道に一步一步伸ばして行く星です。  
堅実に人生を積み上げてきた、その一つ一つの経験が、  
この人を形作っているわけです。

一つ一つの石（意思）をしっかりと確実に、あぶなげなく  
積み重ねてきましたから、簡単には崩れません。

ところが、急激に伸ばしたときなどは経験不足ですし、“一発当てた”場合というのは、それは培われたものではないのです。しっかりとした土台もなく、伸びたものですから崩れるのも速いのです。

一步一步しっかりと、積み上げて来ました。となれば、信用も勝ち得るし、最終的には成功できます。そのためには、一つ一つの経験が血となり肉となって、身につく必要があるはずです。

その意味で、経験思考といわれています。さまざまに経験したことが自分のものになる星です。これまで続けてきたことが身につきます。このことはほかの星よりも優れている質のひとつです。それゆえに、たとえ——失敗しても、その失敗は司禄星が成長していくうえで滋養となりますから、おなじ失敗を繰り返さない星です。

**経験したことを糧として、おなじ失敗を繰り返さない**

特に司禄星の主星の人、あるいは、人体図に司禄星をもつ人は、仕事でも、結婚生活でも、何事にも一つ一つの経験が糧<sup>かて</sup>になります。

たとえ失敗しても、それを経験したことで、おなじ失敗を繰り返さない質があります。

参考・糧（成長していく上で、精神的にもささえとなるもの）

地道ですけど、一つ一つ堅実に歩んで行こう——とする  
気概<sup>きがい</sup>で進むことは、大きく伸びることになるのです。

司禄星の特性を活かす<sup>い</sup>ことは、宿命通りの生き方です。

☞ 急に伸ばそうとしてしまうのは、この星の持ち味ではないのです。

何の経験もなく、急に伸びることができたとしても、それはダメになります。

仕事・私生活・何事もおなじと考えてください。

【初年】 3 1 回目【十大主星特性③】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 3 2 回目【十大主星特性④】 攻撃本能の星